

私たちの職場における安全の推進について

松本・松本担当区事務所 木 下 信 昭

“ 羽 山 国 利

はじめに

担当区においては、昭和31年より今日まで42万時間余に及ぶ無災害記録を続けており、また、今年9月をもって25年間の長期無災害職場達成をも目前にしている。この一区切りを迎えるに当たり、これに至った背景、あるいは日ごろの安全活動について再考し、更に今後に向かって、無災害職場の維持という目標に対する方向付けとしてとりまとめたので、今回発表するものである。

I 担当区の概要（安全関係）

1. 作業地：国有林の平均標高1,600 m、官行造林地平均標高1,200 m、西向傾斜15～30°
2. 労務：事務所2名、作業班5名（5～6名） 作業班平均年齢49歳
3. 通勤方法：ミニバス利用（昭和51年より）
4. 主な作業内容：除伐、植付、下刈、地ごしらえ、収穫調査等

II これまでの無災害を支えた背景、因子

昭和31年、最後の災害を契機に担当区全員が一体となり、相互信頼関係の確立、作業に対する気力の集中、作業地環境条件への即応等を基本とし、今日まで長期にわたり無災害職場を維持して来た。

1 チームワークと安全作業に対する認識。

事務所、作業班全員が互いに気持を合わせ、より良い信頼関係を作る努力を重ねてきており、結果としてチームワークが良く、言いたいことは言い、また、和気あいあいのうちに作業が進められるという良好なふんい気がある。更には、長年にわたる主任、係員の適切な指導と作業職員の考え方が調和し、個人個人の造林技術、安全作業に対する認識、行動が良好な軌道に乗って来た。

2 リズム感のある作業

良好な人間関係及び人柄によるところが大きいと思われるが、休憩、休憩時には世間話に花が咲くなど、大変リラックスしたふんい気を作り出す一方、作業中はキビキビした規律ある行動がとれている。

こうした緊張とし緩というパターンの繰り返しリズム感をもたらし、結果として作業に集中でき、災害の防止更には能率の向上に役立っているものと考ええる。

3 作業地等条件への即応

当日の降雨、降雪等の理由による作業地、通勤路の状況に対応し、可能な限り作業場所の変更等処置をしている。特にミニバスは機動力を備えているため、作業地、通勤路の変更がたやすい。

また、あらかじめバスに一通りの作業用具を用意することにしており、作業種の切り替えにも備えている。

Ⅲ 日常の安全活動

これまでの、長期無災害職場を維持するという目標に対して実施してきた主な安全活動について、以下4点ほど掲げてみる。今回の機会に考えてみると、今後に向けなお改善充実の余地はあ
るものと思われた

1 安全日誌について

表一 安全衛生管理点検日誌記録表 (年月)

日付		1	2	3	4	5	6	7	8	9
点検項目	天候	はれ	はれ	曇り		はれ				
	作業種別									
	地くしらえ									
	植付									
	下刈	○	○	○		○				
	除伐									
	歩道									
	その他									
保護具および 装備状況良否	保安帽	○	○	○		○				
	鎌おい	○	×1	○		○				
携帯器具 の良否	良	○	○	○		○				
	否									
救急薬品 携行	有	○	○	○						
	無					×1				
服装	良	○	○	○		○				
	不 良									
私(公)傷 病発生有無 と部位	有			私1						
	無	○	○			○				
	腰									
	頭									
	腹			○						
	手 足 その他									
その他必要事項		250 は ミー ティ ング 実 行	250 は	250 ろ ハ チ に 注 意	日 曜 日	250 ろ				
サイン	記入者	羽山	羽山	羽山		羽山				
	検閲者	木下				木下				

安全日誌に対して、文章による記入は皆面倒がると思うことから、担当区ではあらかじめ点

検項目を設け、○×及び数字を主として記入する独自のチェック式点検表を使用している。

活用としては、指摘事項、私傷病等につき年間データを取り翌年度以降における安全活動の実施及び指導に役立てている。

なお、記入者については、年間の傾向を把握する目的から1年を通し1名に特定している。

2 相互注意運動の実施について

不安全行動あるいは危険箇所等については、その場で発見者がその時注意することにしており、また、素直に受け入れるよう努めている。54年度当署において実施した「安全アンケートの集約結果について」から1項目につき引用すると、全員が同僚より注意されたことがあると回答しており、ともすれば、他人への注意は感情面に発展しやすい困難があると考えられるが、担当区においてはそれぞれが真の目的を理解し徹底していると言える。

3 ミーティングの実施について

担当区にとり、安全上また作業を進める上で基本となるものであり、作業の前後等必要に応じ5～6分程度行う。仕事については班長、安全関係については安全推進員が中心とはなるが、全体としては自由討議の形式をとり、互いに気軽に話すことのできるふんい気作りに特に努めている。また、安全懇談会以上にウエイトを置くものでもある。

4 ミニバスの安全運行について

7か所の国有林と点在する官行造林を有することから、運行路線も多く、路程も国道、県道、市道、林道、作業道と複雑である。また、1日の運行距離も平均50km、遠くは80kmを越え、特に神経を使っている。

安全運行に対する基本的事項の厳守は当然ながら、運転は運転手のみに任せることなく、全員が助手的立場に立ち、落石、凍結、市街地における他車等、周囲条件のは握、早期処置に努めている。

Ⅳ 今後に向かって

担当区においては、前記の様に特に変わった方法、安全活動を行なっているとは言えないのである。

これまでの長期無災害を結論づけるとすれば、個人の優れた技能を根拠とする良いチームワークの確立と維持、安全作業の基本厳守という全員の安全作業に対する認識によるところが大きいと思われる。言い替えれば良い仲間を作り維持し、決められたこと、決めたことは守ると言うことにつきと思う。

一方災害が確率的に発生するという考えに立てば、自信過剰、安全活動のマンネリ化というような気持のゆるみによる危険は極力避けなければならない。

今後に向かい更に無災害を続けるためには、

・ チームワークの維持と、安全に対する全員の認識を基本とする前述の安全活動、すなわち

- ① 安全日誌の改良と効果的活用による不安全因子のチェック
- ② 相互注意の徹底による不安全事項の発見、防止
- ③ 効果的、現実的ミーティング実施による、注意、指導、和の維持
- ④ ミニバスの安全運行

更に

- ・ 全員の仕事に対する理解に立脚し、疑問・不安を持った作業の防止と現地のは握
- ・ 自主的健康管理推進による、ベストの体調での日々作業への対応

の上にたち、力を合わせ無災害職場維持に挑戦の決意をするものである。

今回の発表という機会を、これまでの安全活動見直しの場におきかえ、全員で検討した結果をとりまとめたものである。

皆様の御指導、助言をお願いします。



森林保全管理業務における地域との協力関係について

駒ヶ根・庶務課 管理係 和 木 千馬男
平 沢 善 栄
山 崎 已 達

はじめに

最近、国有林に対し「保健休養の場」の提供という要請が一段と強くなっているが、この要請に応え、よりよい自然環境を維持するためには、それなりの経費を必要とするが国有林の現状からは、それにも限界があるといわざるを得ない。

また、改善計画でも、国有林はすぐれた自然を提供し、その保全管理は地域の協力を得て行うことになっているが、一般的には、これに程遠い実態である。

このようななかで、当署では過去6年以上にわたり、地域と一体となって森林保全管理を進めてきたので発表する。

I 中央アルプスの位置及び現況

- 1 当アルプスは、国鉄飯田線と中央西線にはさまれた南北約100kmの山脈である。
- 2 このうち登山の対象となる地域は、経ヶ岳から恵那山までの約65kmで、本発表の対象地域は、駒ヶ岳、宝剣岳、濃ヶ池、千畳敷などを主とした一帯である。
- 3 これらの地域には、夏となれば「コマウスユキソウ」「タカネツメクサ」「チシマギキョウ」など120種以上の高山植物が咲き乱れている。

II 登山者の状況

- 1 登山者と連及者の状況はつぎのとおりであり、加速度的に増加している。